

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 記述解答用紙記入上の注意

(1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。

数字	見本
0	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

(2) 所定の欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

(3) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(4) 解答用紙は折り線のところから山折りにしてから解答すること。

(5) 字数指定のある問いに答える場合は、句読点などの記号も字数に含めるものとする。

(6) 字はすべて丁寧に書くこと。

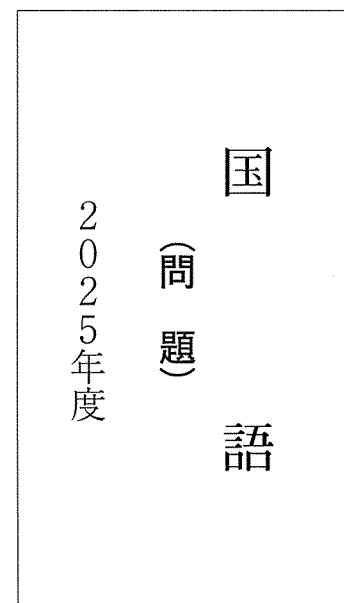
5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。

6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。

8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

9 この問題冊子は持ち帰ること。



〈R07192061〉

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「自己責任」という言葉は、明治時代にすでに用例が存在するほか、大正時代には翻訳語として使用されていた。しかし、今日におけるこの用語の意味を決定づけているのは、主として一九八〇年代以降に日本に流入してきた、「新自由主義」の影響である。

簡潔に説明するなら、新自由主義とは、経済に対する政府の介入を抑制し、市場を民間の自由な競争に委ねることで、経済発展を促そうという思想である。たとえば、公共サービスの民営化が、こうした思想に基づく政策として挙げられる。そして、政府による社会保障は縮小する。結果として市場は活性化し、経済成長が促されていく。経済は望ましい状態を維持することができる。それが、新自由主義の発想である。

ただし、こうした施策を有効に機能させるためには、国民自身が、「国は自分を守ってくれないから、自分のことは自分でなんとかしないといけない」という価値観を共有していなければならない。そうした価値観を植え付ける道徳的指針が、自己責任論なのである。

かつて、イギリスの首相であったマーガレット・サッチャーは、一九八七年のインタビューで、本来なら自分で努力できるにもかかわらず、努力を怠って政府に助けてもらおうとする態度を次のように批判した。そうした態度を取る人は、自分が努力しなくても、「社会」が何とかしてくれる、と漠然と考えている。しかしその人は、その「社会」の実体が一人一人の具体的な人間であることを忘れている。そんな風に甘えた人間を助けてくれる人など、一人も存在しない。その意味において「社会などというものは存在しない」。だからこそ私たちは、「自分自身への責任」を引き受けるべきなのだ。そのように自己責任を引き受ける人生こそが、賞賛されるに値するのである。

一見すると、彼女は道徳的な生き方について語っているかのようである。しかし、その背後にあるのは、財政をめぐる政府の現実的な都合だろう。新自由主義は社会保障を縮小する。自らの怠惰のせいで失敗した人間を、政府が助けるわけにはいかない。

しかし、そうした人間をあからさまに政府が拒否すれば、人々は政府に対して反感を募らせるだろう。反発を回避するためには、人々が自分から社会保障を頼らないようにする必要がある。つまり、自分の責任で生きることこそが人生の「美しさ」であり、社会保障を頼ることはシユウア^aクで恥ずかしいことだと、人々が自分から思うように仕向けるべきなのだ。だからこそ彼女は、社会保障を頼らないことを、あたかも道徳であるかのように語っている。こうした仕方^{かた}で、新自由主義は自己責任論を要請するのである。

自己責任論は欧米で発祥し、新自由主義とともに日本に輸入されてきた。それが日常的な語彙として人口に膾炙^{かいしや}するのは、一九九〇年代以降である。特に一九九一年の新聞において「自己責任」という言葉は急増した。

一九九〇年代半ば以降、行政・財政・社会保障などの各分野で、改革政策が推し進められていった。その過程で、自己責任の概念は経済原則としての役割を演じ続けた。個人は経済システムを支えなければならない。そして自己責任を果たすためには、それに相応する能力を涵養^{かんよう}する必要がある、国民は生涯にわたって「自己研鑽^{けんざん}」しなければならない——このように、自己責任は、個人が引き受けるべき道徳的責任として、極めて具体的な義務として語られていた。

このように、日本政府が国民に自己責任を要求している理由は、国民のためではなく、経済システムを成り立たせるためである。つまり国民は、経済システムを成立させるための手段として、自己責任を課せられるのである。

二〇〇〇年代に入ると、自己責任論に対する批判的な論調も目立つてくるようになる。そうした風潮を決定づけたのは、二〇〇四年四月に発生した、イラク日本人人質事件²であろう。

これは、イラクに渡航して活動していた日本人三人が、現地の武装組織に誘拐された事件である。当時のイラクは、前年に起きたイラク戦争によって治安が著しく悪化しており、日本政府は渡航自粛勧告を発表していた。三人はこの勧告を無視して現地へ入国していた。

三人を誘拐した武装勢力は、イラクにチュウトン^bしている自衛隊の撤退を要求し、さもなければ三人を処刑すると声明した。当時の首相であった小泉純一郎は、この要求を退けた。結局、イラク・イスラム聖職者協会の仲介によって、三人は全員解放され、無事に帰国することができた。

そうしたなかで現れてきたのが、自己責任論に基づく次のような主張だった。すなわち、武装勢力の要求を飲むべきではない、その結果として三人が処刑されるのだとしても構わない、なぜなら渡航自粛勧告を無視してイラクに渡航し

たのは本人たちの自己責任であるからだ、というものだ。

一方、これに呼応するようにして、自己責任論への激しい批判も噴出した。「自己責任」は二〇〇四年のユーキャン新語・流行語大賞のトップテンにランクインする。そこでは、「自己責任」という言葉が、責任を「転嫁」するために使われると述べられている。すなわち、イラク日本人質事件において、本来、政府が果たすべき責任が、勧告を無視した三人に転嫁され、自己責任の名のもとに三人は「切り捨て」られた——そう説明されているのである。少なくとも、選者はこの言葉の使われ方を、欺瞞的なもの、詭弁的なものとして捉えているのだ。

この事件をめぐる議論は、自己責任という概念が持つ、一つの重要な側面を浮かび上がらせている。それは、自己責任が「排他的」なものである、ということだ。⁴ ある個人に責任があるなら、別の個人には責任がない。ある行為の結果が「私」の責任なら、それは「私」以外の誰かの責任にはなりえない。したがって、誰かに責任を引き受けさせた時点で、それ以外のすべての人間は責任を免除される——自己責任論には、そうした機能も備わっているのである。自己責任を唱える陣営は、それを三人の責任にすることで、政府や社会を全面的に免責しようとしたのである。

精神科医の片田珠美は、現代社会を「一億総他責社会」と呼ぶ。片田によれば、「他責」とは「うまくいかないことは何でも他人のせいにして、『自分は悪くない』と主張する」ことである。私たちの社会には、そうした考え方で自分を正当化し、自分自身と向かい合わない人が数多く出現しているという。

前述の通り、そもそも自己責任という概念は、他者への責任転嫁を含意している。なぜなら、誰かに責任を課すことによって、それ以外のすべての人間の責任は免除されることになるからだ。そのように考えるなら、自己責任と他責は対極にある概念ではない。むしろ、両者は常に同時に発生するものである、と考えることができる。

他責に陥るということは、言い換えるなら、無責任になるということだ。自己責任論はかえって人々を無責任にさせる。結局のところ自己責任論は、本来なら責任がある者を免責するために語られる。そうである以上、言説としての自己責任論は、決して責任という概念そのものを尊重するものではなく、むしろそれを蔑ろにする考えですらある。

サッチャーの言葉に戻ろう。彼女は、「社会など」というものは存在しないと言った。しかしこの言葉が本当に意味していたのは、「政府に責任など」というものは存在しない」ということではないのだろうか。つまりそれは、個人に責任を帰すことで、⁵ 政府を免責するために語られた言葉なのではないだろうか。

これまでの検討から明らかなように、自己責任論は、権力による統治と密接につながっている。それは、権力を維持するために、人々を「責任のある者」と「責任のない者」に分断する。このとき、「責任のある者」が「責任のない者」に援助を求めることは、無責任だ、と批判される。なぜなら、自己責任論は排他性を前提にしているものであり、ある者に責任があるなら、それ以外の者に責任はないからだ。

このようにして、他者に援助を求めることは、それ自体がネガティブな行為として評価される。自己責任論が正しいとみなされるとき、私たちは誰にも助けを求めることができない。そしてそれは、「責任のある者」にその責任を果たす能力がないとき、その人を絶望的な状況へと追い込むことになる。

また、ここには、「他人に迷惑をかけてはいけない」という日本的な価値観も反映されているように思える。私たちの多くはそうした規範を義務教育の過程で教えられる。そうした迷惑思想が自己責任論と癒合しているのかも知れない。一度責任を負う立場になったなら、その責任を果たすために、誰にも援助を求めてはいけない。もしも援助を求めるなら、そのとき私たちは他者に迷惑をかけていることになる。それほどまでに、他者に援助を求めることは、不正な行為であり、また恥すべき行為として位置づけられているのである。⁷

もともと自己責任とは、**A** 的な人間観に基づく「強い」主体を前提とした責任概念である。そこでは、誰かに責任が帰せられる一方で、それ以外の人々は責任を免れる。この意味で、自己責任は排他的である。

そうした排他性が意味しているのは、人間が他者との関係から切断され、社会から孤立した個人として理解される、ということだ。それは「個人主義」と言ってもよい人間観だろう。「私」に自己責任が課せられるとき、「私」以外の他者には同じ責任は課せられない。自己責任が成立するのは、「私」の行為があくまでも「私」だけによってなされたものである⁸、そこに他者からの影響は存在しないとされるからだ。

しかし、そこに問題があるのは明らかである。たとえば、果たすことができない責任を負ってしまったときでも、他者に手助けを求めることは道徳的に非難される。このように、自己責任の排他性は、責任を果たすために人々が助け合う、ということと不可能にする。そうした排他性が看過できない深刻な事態を引き起こすことがあるのである。

問一 傍線部 a、c のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えよ。

問二 傍線部 1 とあるが、サッチャーのこの発言はどのようなことを意味していたと言えるか。次のように答えるとき、その空欄に入る最も適切な言葉を本文中から一語で抜き出して答えよ。

政府が国民に対して [] になるということ。

問三 傍線部 2 とあるが、「自己責任」が「道徳的責任として」語られていたのはなぜか。次のように答えるとき、その空欄に入る最も適切な言葉を本文中から九字で抜き出して答えよ。

すべての国民に自己責任という [] 必要があったから。

問四 傍線部 3 とあるが、「自己責任」の「排他的」という性質のために妨げられるのはどのようなことか。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な部分を本文中から十六字で探し、その始めの五字を答えよ。

[] こと。

問五 傍線部 4 とあるが、そこで述べられている「個人」はどのような性格を持つ存在か。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な部分を本文中から二十一字で探し、その始めの五字を答えよ。

[] 存在。

問六 傍線部 5 「政府を免責する」とは、この場合、具体的にどうすることか。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な言葉を本文中から四字で抜き出して答えよ。

[] の削減を正当化する。

問七 傍線部 6 とあるが、自己責任論によって統治者が維持しようとしているものは具体的には何か。最も適切な言葉を本文中から六字で抜き出して答えよ。

問八 傍線部 7 「恥ずべき行為として位置づけられている」とあるが、これと同じ内容を言い換えている部分を本文中から九字で抜き出して答えよ。

問九 空欄 A に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、その記号を答えよ。

ア 近代 イ 理想 ウ 伝統 エ 公共 オ 普遍

問十 傍線部 8 「そこに他者からの影響は存在しないとされる」を次のように言い換えるとして、その空欄に入る最も適切な言葉を後のア～オから選び、その記号を答えよ。

そこでは [] 的な要因は考慮されない。

ア 政治 イ 個人 ウ 経済 エ 社会 オ 道徳

問十一 本文中における「自己責任」に関する説明として適切でないものを次の中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア 自分の能力をこえる責任を負ってしまった人を援助することは、自己責任論においては批判の対象になる。

イ 自己責任という考えは人々に責任という概念を過剰に意識させ、その結果、他責という不寛容を生み出した。

ウ 自己責任論の下では、利己的で他責的な人間が必要な助けを求める人を「迷惑だ」と非難する事態が生じ得る。

エ 人々を「責任のある者」と「責任のない者」に分断する自己責任論の基底にあるのは個人主義の考え方である。

オ 自己責任の考え方は、多くの問題を個人の責任に帰してしまうため、政治の責任が看過される結果をもたらす。

問十二 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、その記号を答えよ。

- ア 現代の日本社会には、他者への責任転嫁によって自分を正当化し、自らを省みない人間が増えている。
- イ 自己責任論は九〇年代に日本に浸透し、国民は死ぬまで自らの責任で自己研鑽を続けるべきだとされた。
- ウ イラク日本人質事件で、日本政府は勧告を無視した三人を自己責任の名のもとに切り捨てようとした。
- エ 八〇年代にサッチャーが自己責任を説いた背景には、イギリス政府の財政難という現実的な問題があった。
- オ 日本の政府が国民に自己責任で生きること求めたのは、新自由主義の政策を推進するための手段であった。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日常生活でごくふつうに経験される自分の身体のありようを考えてみると、それは、物体のように客観的に観察されるだけのものではないはずです。目にかゆみを覚え、思わず、指先でそれを擦ってしまう、そんなごく単純な例からもこれははっきりしてきます。

指や目であれ、自分の身体経験には、知覚されながらも知覚するもの、知覚しながらも知覚されるもの、そんな両面性がつきまとう。自分がじかに感じている身体は、空間物でありながら知覚の担い手でもあり、知覚の担い手でありながら空間物でもあり、もともと、心のはたきから切り離して考えることができないようなものなのです。

¹ 鏡や写真、動画などに映しだされる自分の姿を見るとき、妙な恥ずかしさや違和感を覚えることがあります。とくに録音された自分の声は、自分のものとわかっていても、自分がいつも聞き慣れているようすとはちよつと違った感じがしてくるものです。

自分で感じる自分の身体のありようは、外から知覚されるようすとそのまま同じであることはありません。なにしろ、自分の顔や背中、頭頂部などは、鏡や写真で見えることはできても、どうがんばっても、じかに見ることはできない。身体には、自分の内面には知覚できない外面が伴うわけです。

身体をそなえて生きている人間には、どうしても、内面と外面という両面性がつきまとう。なにしろ、自分が思い、感じる内面を周りにうまく伝えるためにも、そうした外面性を伴う自分の身体を頼りにしてゆくしかないからです。人間は、だれだって、自分の身体を助けにして、内なる思いや気持ちを表現して生きていかざるをえません。身体とは、ただの外面ではなく、内面と外面が微妙にずれ合いつつ交差するところなのです。

ここで、「私の身体」という言い方について考えてみると、ごく自然で、とくにおかしなところはなさそうです。ところが、それをそのまま、「私の机」というときに使われる意味と同じだと考えてしまうと² おかしなことになってきます。

たとえば、部屋でレポートや原稿を作成するためにパソコンで入力作業をしている状況のことを考えてみましょう。パソコンの画面を見つめながら、キーボードを打ち、マウスを動かし、画面に映しだされる文字の入力状況や、キーボードやマウスの操作に気をとられている。そんな **A** 夢中の状態だとします。それでも、その作業が作業として成り立つかぎりは、まさか、前後 **B** になって自分をまったく見失っているわけではありません。

そのとき、自分の付まいや身のこなしをはっきりと意識して、そこにいるのではなく、自分の身の振る舞いにそのまま溶け込み、一体化している。そこに見え、触れている机や椅子、パソコンの画面やキーボード、マウス、その周りに置かれた筆記用具や辞書、飲みかけのコーヒーなど、あれこれが散らばる状況に^a うもれながらも、その取り扱いや手順など、勝手がわかっている。それと並んで、その中心であるここに自分がいるのも、何となくであっても、確かな実感を伴いながら、わかっているはずです。

³ 何となくわかっている、そんな感じでここにいるような自分のあり方と、はっきりとそこにあると意識されるものがあり方とは、まるつきり違います。なにしろ、何となくわかっているという自分のあり方は、目の前のそこや、周りのあそこ⁴ に置かれたあれこれのもののように、そのようすをしつかりと観察できはしないからです。

だからといって、それは、どこに⁵ いるのか得体も知れないものになってはいません。自分の身体として、漠然とではあれ、たしかにその存在が実感されている。

ために目を閉じて、自分の身体のあり方を感じてみるとわかりやすいかもしれません。そのとき、中心にいる自分の身体と外部との境界のようすを探るには、⁴ 触覚に頼るほかはなく、輪郭そのものや前後左右の区別もばやけ、すんなりと行動するのはかなり難しくなっています。

そうした実に頼りなく、不安な気持ちにさせる状況にあっても、その身体のありようは、そのまるごとの広がりそのまま、じかに感じとることができる。目に見える自分の身体は、輪郭がはっきりしてはいても、見えるのは一部分でしかなく、どうがんばっても、顔や背中をじかに見ることはできません。一方、目を閉じて感じる自分の身体は、まるごとすべてというあり方をしてている。

それでも、ふだん、何かをしたり、考えたりしているその自分にとっては、そんな身体のありようなど、いちいち気にしてはいられません。⁵ 身体は、自分があれこれし、考えることの手前で隠れてはたき、日常の経験をその背後で支

えてくれているのです。

たとえば、久々に親しい友人と会うために、どこか人混みのなかで待ち合わせをしているような状況を思い浮かべてみてください。友を待ちながら、人の流れを何気なく眺めていると、しばらくして、遠くに、慣れ親しんだ姿や顔つきが見え隠れしている。目を**こらし**^b、そのように注目してみると、それが待ち合わせをしている友人のものであることがわかり、とても嬉しい気持ちになって、思わず、ここに自分がいることをどうにか気づかせようと、手を振り上げ、声を張り上げてしまう。似たような経験をしたことはだれにもあるかもしれません。

そんなときには、内面で感じる嬉しさとそれを外面に表現することの区別など、ほとんどなくなっている。内面であまりの嬉しさを感じるばかりに、それがそのまま、手を振り上げ、声を張り上げるといふ外面のしぐさや言動と一体となり、気がつけば、自分の気持ちがそうした表現になっている。自分がここで感じている気持ち、その隠れた内面が、友人のいるそこに向かって、そのまま表に現れてしまっているのです。

これは、日常のいつ、どこでも成り立つことかもしれません。自分を取り巻く人や物や出来事、そのようにすぐに触れながら、思わず何かしらの反応をしてしまい、それが顔つきやしぐさ、言動となって現れる。そのように、気づかないうちに、身体を通じて、いつでも自分を表現しながら生きていくのではないのでしょうか。

そのときの身体とは、ただの物体でも、機械や道具でもなく、自分の内面とほとんど表裏一体のあり方をしている。とするなら、「自分の」身体といっても、自分が使ったり使わなかったりするような所持品とはまったく違った意味が含まれていることになります。身体は、いつでも、自分のいるここではたらき、自分のいるここを成り立たせているのだとすれば、ここにいる自分から離れることなど考えられないからです。

(岡山敬二『わからなさを生きる哲学』より・一部改)

問一 傍線部 a・b のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部 1 のようなことが起きるのはなぜか。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な部分を本文中から十七字で探し、その始めの五字を答えよ。

自分の身体^aのありようは しているものであるから。

問三 傍線部 2 「おかしなことになってきます」とあるが、それはなぜか。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な部分を本文中から十六字で探し、その始めの五字を答えよ。

自分の身体は机のように ないから。

問四 空欄 A・B に入る最も適切な漢字二字をそれぞれ答えよ。

問五 傍線部 3 「何となくわかっている」とはどのような状態のことか。次のように答えるとして、その空欄に入る最も適切な言葉を本文中から七字で抜き出して答えよ。

自分の身体^aの を漠然と感じとっている状態。

問六 傍線部 4 「触覚」はいわゆる「五感」の一つであり、「五感」とは次の五つである。その空欄に入る漢字二字を答えよ。

視覚・聴覚・ ・味覚・触覚

問七 傍線部 5 とあるが、それは身体がどのようなにはたらいっていることを述べたものか。次のように簡潔に答えるとして、その空欄に入る最も適切な言葉を本文中から八字で抜き出して答えよ。

身体が はたらいっているという。

問八 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、その記号を答えよ。

- ア 私たちの身体は、知覚する主体でありながら同時に知覚される対象でもある。
- イ 人間は、自分の身体の助けを借りて、他者とコミュニケーションをしている。
- ウ 我々の身体は、他の空間物とは異なり、心のはたらきと不可分の関係にある。
- エ 人間という存在には内面と外面という両面性が避けがたくつきまとっている。
- オ 人間の身体は作業に集中している時、周囲のものとほとんど一体化している。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、宇治殿の御夢に大柑子^aを三つ御覧じたりけるを、夢解きに問はせ給ひたりければ、「あめ牛、三つ出で来なむ」と申したりけるに、¹実に人参らせたりければ、御前につなぎて、興じ御覧じけるに、その頃、りうさの三位とて、いみじき人ありけり。参りて、この牛どもを見て、「なでふ牛にかさぶらふ」と申す。²「かうかう夢に見えてあるなり」と仰せられければ、「めでたき御夢を、わろく合はせたり。この御夢、合はせむ」とて、よき日とりて、日隠しの間に、⁴うるはしう装束^{きようそく}きて、この御夢を^b語らせ給ひて、合はす。⁵「三代の帝の関白をせさせ給はむ」と合はせ申したりける。実に三代の帝の御後見せさせ給ひて、四代といふ後三条院の御時、宇治に⁶こもらせ給ひにけり。^{*}夢は合はせ柄なり。

〔世継物語より〕

語注

* 宇治殿 藤原頼通。藤原道長の長子。

* 大柑子 夏みかん。

* あめ牛 飴色^{あめ}（暗黄色）の牛。上等な牛として尊ばれた。

* りうさの三位 不詳の人物。

* 日隠しの間 御殿の正面の階段をのぼったところにある部屋。

* 宇治 現在の京都府宇治市にある平等院のこと。

* 夢は合はせ柄なり 夢占い、どのように判ずるかによって良くも悪くもなる。

問一 二重傍線部 a「申し」、b「語らせ給ひ」、c「合わせ申し」の主語として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、その記号を答えよ。ただし、同じ記号を二回以上用いてはならない。

ア 宇治殿 イ 大柑子 ウ 夢解き エ あめ牛 オ りうさの三位 カ 語り手

問二 傍線部 1「参らせ」、4「うるはしう」、6「こもら」の意味として最も適切なものを後の選択肢の中からそれぞれ選び、その記号を答えよ。

1 参らせ

ア 参上する イ 献上する ウ 訪問させる エ 祈願させる

4 うるはしう

ア 美しい イ 見事である ウ みずみずしい エ きちんとしている

6 こもら

ア 隠れ潜む イ 幽閉される ウ 隠遁^{いんどん}生活をする エ 謹慎生活をする

問三 傍線部 2「なでふ牛にかさぶらふ」の解釈として最も適切なものを次の中から選び、その記号を答えよ。

ア これは、どういう牛でございますか。

イ これが、どうして牛でございましょうか。

ウ これは、何と立派な牛でございましょう。

エ どうして牛をお側近くに置いているのですか。

オ どうして牛をお側近くに置いてよいのでしょうか。

問四 傍線部 3「かうかう」では会話の内容が省略されている。ここで省略されている会話の内容として最も適切な言葉を本文中から六字で抜き出して答えよ。

問五 傍線部 5 「帝の御後見」と同じ内容を表す言葉を本文中から一語で抜き出して答えよ。

〔以下
余白〕

国語解答用紙

(注意) 受験番号・氏名は下の二つの欄に記入すること。
解答は右に指定された欄に書くこと。

〈R07192061〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定の欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

三

問一	a
問二	1
問三	
問四	
問五	

問八

二

問一	a
問二	
問三	
問四	A
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	

一

問一	a
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	

折り線

〈R07192061〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定の欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。



国採点
語欄

三

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問八

二

問一	
問二・三	
問四	
問五	
問六	
問七	

一

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六・七	
問八	
問九・十	
問十一・十二	